

# 秋田県生涯学習ビジョン

## 教育基本法第三条 生涯学習の理念 平成18年12月

国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

平成23年9月

秋田県生涯学習推進本部

秋田県生涯学習ビジョン

## 知と行動が結び付いたクリエイティブな循環型社会

### 1 策定の趣旨

平成18年、国は教育基本法を60年ぶりに改正し、新たに、第三条として「生涯学習の理念」を掲げました。本県が全国に先駆けて生涯学習に取り組んで40年になります。ここで、本県の生涯学習の将来像を明らかにし、今後の方向を見極めるものとして「秋田県生涯学習ビジョン」を策定します。

### 2 秋田県の現在の姿

本県の人口減少がどの県よりも早く進み、少子高齢化、小規模高齢化集落の増加、深刻な経済雇用、労働生産性の低い産業構造、就業人口の減少、保健・医療サービスの偏りなどの多くの問題に直面していることは、よく知られているところです。今後日本一の高齢県となることが予想され、地域活力の低下が懸念されます。

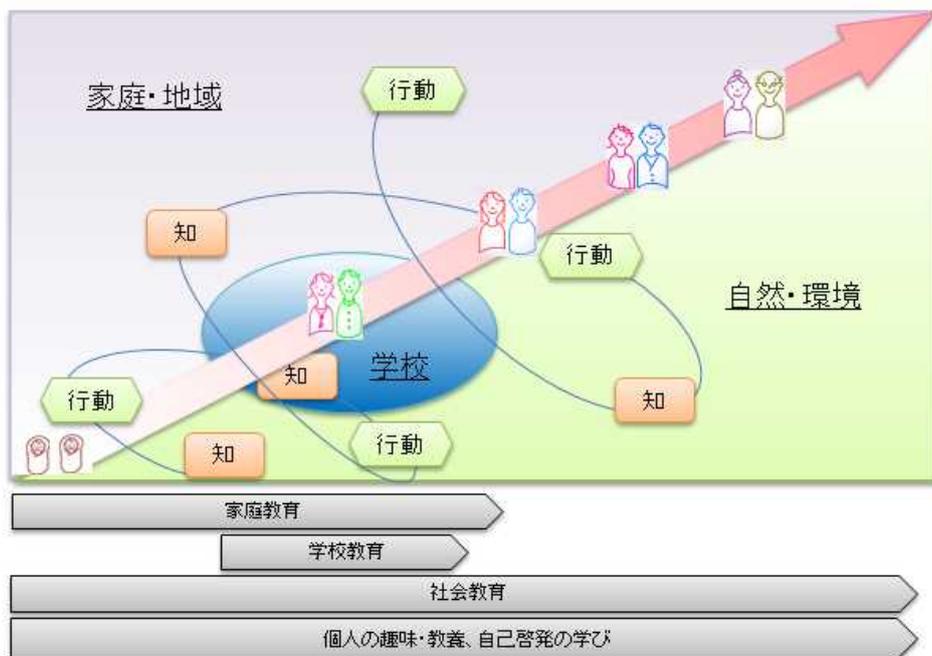
一方、平成23年3月11日に東北地方を襲った東日本大震災は、これまでに感じたことのない喪失感や無力感をもたらしましたが、この経験を通して、人々のものの見方や考え方に変化が見られます。地域に受け継がれてきた人間関係や社会的なつながりを大切なものとして再認識し、自分たちが培ってきた伝統や文化、自然環境などの秋田のよさを大事にしようという機運が新たに芽生えてきています。また、自分にできることを通して社会や人々の役に立ちたいという気持ちが世代を越えて高まり、特に若い人たちの中に育ってきています。東日本大震災では、3,000人にのぼる本県の高校生が、被災地で実際

にボランティアをしたり、これから活動したいと希望したりしています。

また、本県の小・中学生が、全国学力学習状況調査で、連続してトップクラスの成績を収めたことは、県民にとって明るい希望となりました。子どもたちの学力を支える学校、家庭、地域社会の在り方に国内外から注目が集まり、ふるさと教育や生涯学習などの、本県が独自に取り組んできた教育や、当たり前のこととして行ってきた営みが脚光を浴びることになりました。本県はこれまで、生涯学習を通して「いつでも、どこでも、だれでも」学ぶことのできる機会の提供に力を入れ、県民は、学校教育、社会教育、家庭教育、趣味や自己啓発の学習といった形で、人生の様々な場面で自発的に学習してきましたが、このことが、本県全体の教育意識や学習意欲の高さにつながっています。

こうしてみると、本県には、克服しなければならない要素がたくさんありますが、大事に守り育んできたことや普通のこととして行ってきたことの中に、将来を託すことのできるプラスの要素が確かに根付いていることに改めて気付かされます。

### 【県民一人一人の生涯学習のイメージ】



### 3 秋田県の生涯学習の目指す姿

このような現状から本県の生涯学習の将来像を描いてみると、人々が美しい自然や文化を大事に守り育てながら、生き生きとそれぞれのステージで活動し、互いに支え合って暮らしている姿が浮かびます。この社会の姿を言葉に表してみると、「知と行動が結び付いたクリエイティブな循環型社会」となります。

平成20年、中央教育審議会は「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」の答申を行い、「知の循環型社会の構築」を国の生涯学習の目指す姿と位置付けました。この「知の循環型社会」は、個人が自らのニーズに基づき学習した成果を社会に還元し、社会全体の持続的な教育力の向上に貢献する社会です。

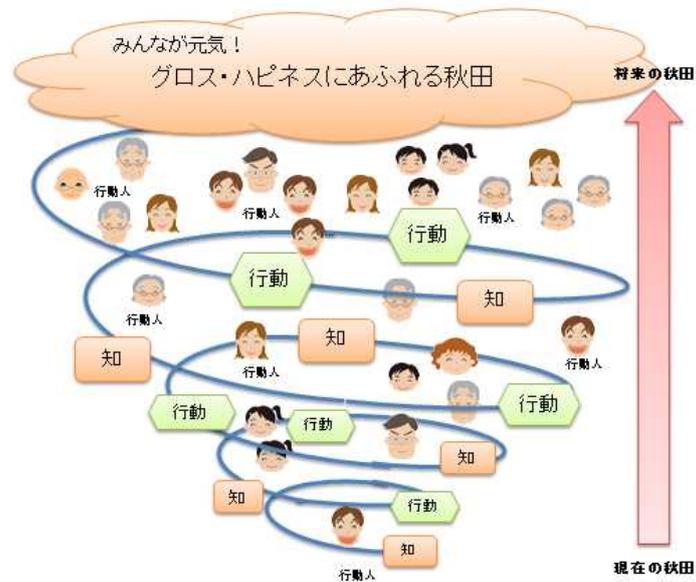
これに対して、本県が目指す生涯学習は、「学んだことを行動に結び付ける」という点を重視し、県民一人一人の行動力を結集して活力あふれる秋田を作る原動力とするものです。これまで我々を縛ってきた価値観を転換し、負のスパイラルをプラスの循環へ変えていく契機とします。

### 4 知と行動が結び付いたクリエイティブな循環型社会とは

ここでいう「知」とは、県民が人生の様々な場面や段階で学んだこと（知識や技能）の全てを指します。また、「クリエイティブな」は「創造的な」という意味ですが、様々な新しい関係を作り出す働きとして、このビジョンでは、「成長する」「立ち上がる」「柔軟な」「他と同じではない」といった意味を含ませています。

一人一人の県民が、学んできたことを生かしてその時々にはできる範囲や分野で行動すると、そこに「問い」が生まれ、新たな学びに結び付きます。そうした行動が周囲の人々を刺激し、行動と学びの輪が広がっていきます。これは、学びと行動の循環が、個人の中で「成長」という姿で生涯を貫いて行われるとともに、その循環が周囲を巻き込んで地域社会を築いていくというイメージです。

## 【行動人が増えていくイメージ】



## 5 こうどうびと 行動人について

「知と行動が結び付いたクリエイティブな循環型社会」は、「グロス・ハピネスにあふれる秋田」と言い替えることができます。幸せを肌で感じることのできる「グロス・ハピネスにあふれる秋田」を築くために、本県の生涯学習は、目指す人間像として、「全ての県民がこうどうびと行動人になる」ことを掲げます。行動人とは、知と行動が結び付いたクリエイティブな循環型社会の担い手です。例えば、昔ながらの秋田のよさを守り伝える人、秋田のよさを再発見して広める人、新しい秋田のよさを創る人をイメージしています。

行動人は「学び人」から始まります。「学び人」は自ら行動する「創り人」となり、人々を行動に誘い広げる「結び人」ともなります。また、自らの学びと行動を通して周囲の人を巻き込み結び付けて社会を築いていく「元気人」でもあります。周囲を見回してみると、日々の生活の何気ない場面で、学校や社会や自らの学びの中で得たことを生かして行動し、様々な形で人々の役に立っている人がたくさんいます。今後は、そうした行動人に光を当てて紹介することによって、まずは秋田の元気を県民に見えるようにします。そして、県民が行動人を意識し、自らも行動人となって地域づくりの一員としての役割を果たしていくことができるよう目指します。